

ひよこだより

和歌山ろう学校 幼児教室（ひよこ組） 令和6年10月号 No.6

空気が乾燥し始め、アレルギーや風邪症状など体調を崩しやすい季節になりました。朝晩の冷え込みも毎日に増してきたので、体調にはお気をつけ下さい。

10月12日の体育祭はお天気にも恵まれ、8家族の参加がありました。いつもとは違う雰囲気にとドキドキしながら、お家の人と一緒に跳び箱を頑張ったり、ゴリラに果物をあげるのを楽しんだりと力を発揮して元気いっぱい活動することができました。『おみやげゲット』にはお兄ちゃん、お姉ちゃんも参加してくれ、同じ活動を楽しむことができました。このような機会に保護者さん同士の交流を図り、関わりを広げて欲しいと思います。行事や集団活動の様子は和歌山ろう学校のInstagramにも掲載していますので、是非ご覧下さい



= 乳幼児期のこどもとの関わり方 =

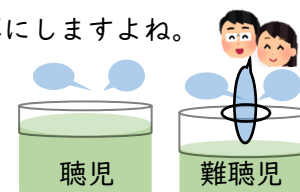
“元松江ろう学校福島朗博先生”と“ろう教育はじめのいっば”で保護者さんがされたお話の一部をご紹介します。個人差はありますが、聞こえるこどもは1歳を過ぎると言葉が出始めますが、聞こえないこどもは人工内耳や補聴器を常時装用し1年を過ぎた頃に言葉が出始めると言われています。補聴機器の装用は大事ですね。

乳幼児期に『ことばのシャワー』という言葉をよく耳にしますよね。

聞こえないこどもの場合、言葉の入る穴が細いため、情報が不足しないように、そこに分かるように入れて

あげる必要があります。いつ言葉が出るのかと気になる

ことだとは思いますが、「言葉が言える」よりも「言葉が理解できる」ことがまず大事です。本人に関係のない言葉も伝えてあげて下さいね。



『ことばが出てくるかわり方』

「今ここで」のコミュニケーション編

遊んでいるおもちゃをとられた場面

こどもがお母さんにまなざしを送ったタイミングで表情を見せ、我が子の気持ちを身振りや言葉で伝える。

10分からで良いので、時間を決めてコミュニケーションをして下さい。



つかっていいよ
かしてあげて

遊んでるのに
いや、やめて

毎日繰り返される場面でのコミュニケーション編

今からお風呂に入ることを伝える場面

- ・日本語（例）お風呂にはいろう
- ・擬態語、擬声語（例）ごしごし、じゃぶじゃぶ
- ・身振り、ベビーサイン、手話（例）
- ・具体物（例）ガーゼ、タオル、おもちゃ、パジャマ等
- ・もっと大切な手がかり → 規則正しい生活リズム



手立てを減らしたり
入れたりし
理解語を探る

どのように
伝えると、こどもが
わかるかな？

『伝え方の基本』

A じゃなくて B だよ



あぶないよ、ダメ → 「だからなに？」状態なので ×



走らないよ → 「じゃあどうすればいいの？」とやるべき行動が不明確なので △

走らないよ、歩いて → 「歩けばいいんだ」と具体的な行動がわかるので ○

特にイヤイヤ期はこどもが葛藤している時期。「×ダメ」が多くなると、こどもはシャッターを下ろし顔を見なくなるので、「何が」を説明することが大事。

「どうして？」に対して何か答える



どうして走っちゃダメなの？ → 危ないからだよ



どうして危ないの？ → ぶつかって怪我するかもしれないね

怪我したらどうなるの？ → 血が出て痛いよ